

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス

**** 6月18日(土) 13:00~16:15 @K23 ****



環境リスク
科学

武林亨

医学部公衆衛生学 教授
(SFC兼任教授)



社会基盤と
制度設計

秋山美紀

総合政策学部 准教授



＜特別補講＞

⇒★リスク社会の制度設計★⇒



西澤真理子

(株)リテラジャパン 代表取締役
シユトウトガルト大学フェロー

リスクを想定した社会システムを
どう作るのか？
食をテーマに考えよう！

安全？



安心？



小川美香子

東京海洋大学
食品流通安全管理専攻 助教

**** 授業を履修していない方も聴講可！積極的な参加をお待ちしています。 ****

本日の流れ

- 13:10～ 西澤真理子さん講演
- 13:50～ 質疑とパネル討論
- 14:30～14:45 休憩
- 14:45～ 小川美香子さん講演
- 15:15～ 質疑とパネル討論
 - 皆さんの事前課題紹介
- 16:00～ ラップ アップ
 - 本日の学びをまとめる

「環境リスク科学」事前課題 「消費者目線」を探せ

- 小島正美『こうしてニュースは造られる—情報を読み解く力』第2章をよみ、そこで書かれている「消費者目線」で報道されたマスメディア情報の事例（新聞、雑誌、テレビなど。個人のblog等は除く）を探してください。提出は二つ。(1)、(2)をPPT各1枚に。

(1) 記事の見出しと概要

(2) その記事についての客観性、公平性あるいはバイアスの程度についてのあなたの意見や判断

締め切りは、6月**16日(水)**の**21時**

「社会基盤と制度設計」事前課題 風評被害、あなたなら

- 自分が、「風評被害」だと思える事例をひとつ選び、「立場」を選び、自分ならどう対応するか？ PPT1枚にまとめて提出してください。

「立場」には、農家、行政の誰か、子育て中の親など
…いろいろな人の立場がありますね。

締め切りは、**6月16日(水)の夜九時(21:00)**

参考資料として、西澤真理子「科学とリスクコミュニケーション」
を読んでみてください。

「環境リスク科学」事前課題 「消費者目線」を探せ

- 小島正美『こうしてニュースは造られる—情報を読み解く力』第2章をよみ、そこで書かれている「消費者目線」で報道されたマスメディア情報の事例（新聞、雑誌、テレビなど。個人のblog等は除く）を探してください。提出は二つ。(1)、(2)をPPT各1枚に。

(1) 記事の見出しと概要

(2) その記事についての客観性、公平性あるいはバイアスの程度についてのあなたの意見や判断

締め切りは、6月**16日(水)**の**21時**

「社会基盤と制度設計」事前課題 風評被害、あなたなら

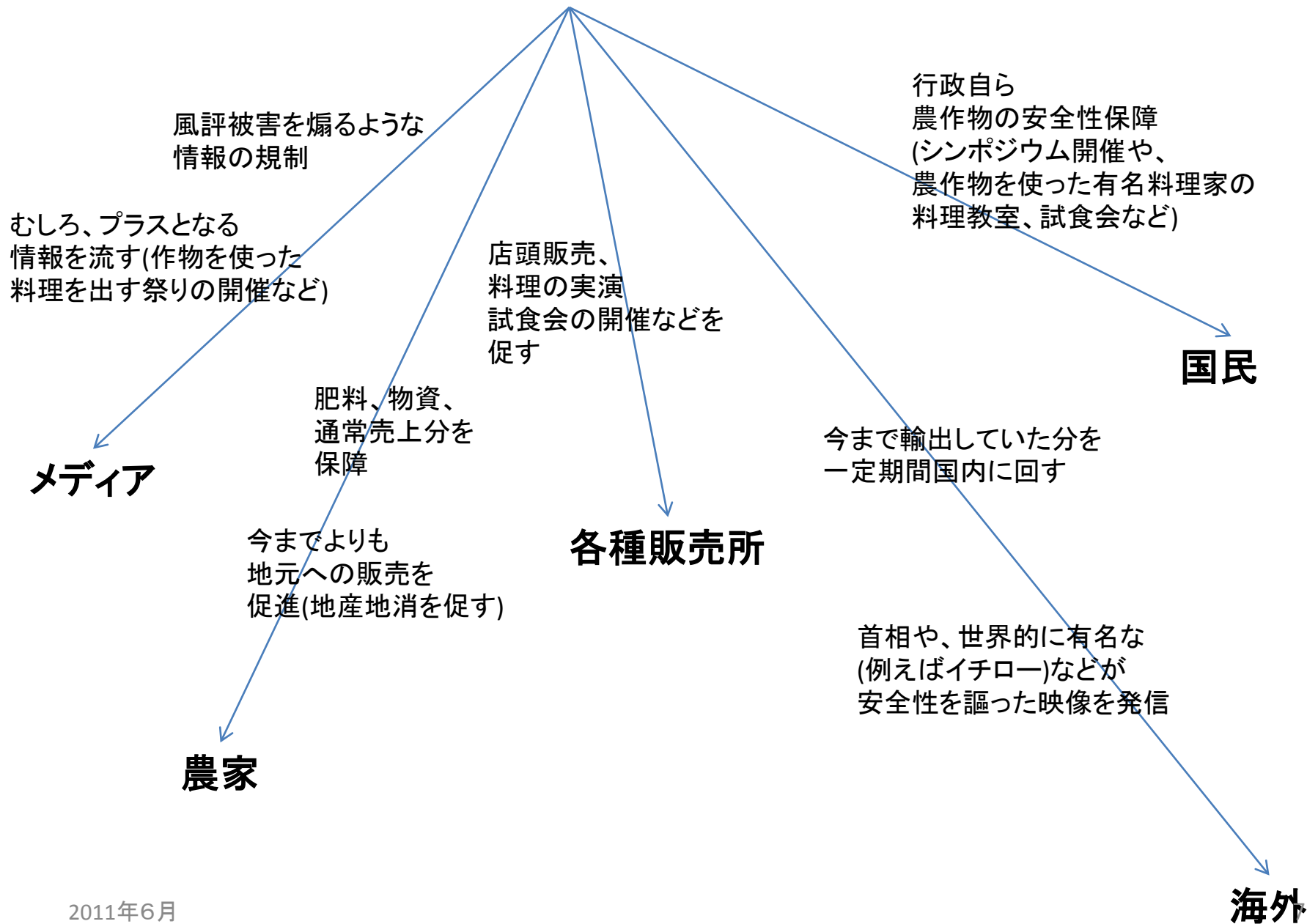
- 自分が、「風評被害」だと思う事例をひとつ選び、「立場」を選び、自分ならどう対応するか？ PPT1枚にまとめて提出してください。

「立場」には、農家、行政の誰か、子育て中の親など
…いろいろな人の立場がありますね。

締め切りは、**6月16日(水)の夜九時(21:00)**

参考資料として、西澤真理子「科学とリスクコミュニケーション」
を読んでみてください。

放射能の風評被害に苦しむ農家の件で、行政の立場に立ったとします。



風評被害：放射能汚染野菜

立場：消費者

消費者
として

意識

放射能汚染野菜は安全であると知る。

行動

福島・茨城の野菜を購入する。

結果

東北大震災の身近な支援の1つになる。



地元

放射能に汚染されたくないという危機感。

安全であるといえ、やはり不安だから買わない。

ならば、街頭やスーパーで募金を行う。

農家を支える！

一家を支える人

放射能汚染の危険がない安全な野菜を出荷を受ける。

スーパーで地場コーナーを設け、レストランでは地元でとれた野菜を使用。

地産地消という形で農家を支える。

都心

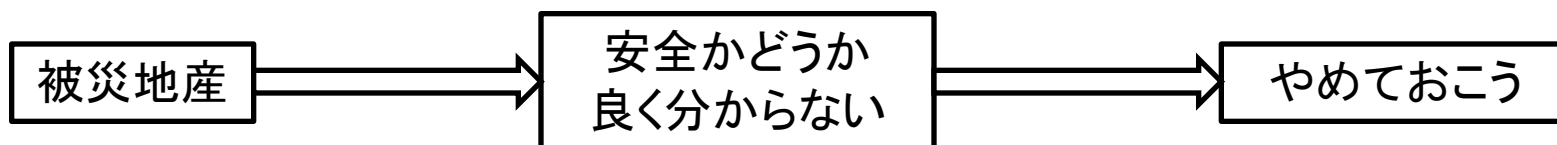
2011年6月

71003836

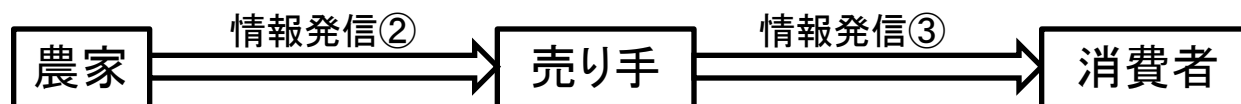
総合政策学部
佐藤 友紀子⁸

事例：被災地の農家

ビニールハウス栽培等の農作物は放射性物質の影響が非常に小さいにも関わらず産地だけで判断され大幅な値崩れ



このプロセスを止めるには安全だと良く分かるよう、正しい情報発信が必要



- ① ネットメディア等を用いて、自ら積極的に市民へ安全性を伝達する
- ② ビニールハウスの農作物だと一目で分かるような表示を作る
- ③ 被災地の商品かつ安全性の保障されたものであるとPRする(働きかける)

線量が他県の作物と変わらないものに関しては、同等に評価されることを目指す

3.11原発事故による風評被害対策～福島県農家の視点から～

現在までの問題:

- 国の暫定基準を越す放射性物質が検出され野菜の一部が出荷停止となった(現在解除済)
- 放射能に汚染された農作物による被害を避けようと業者への出荷を拒否される。
- 消費者による福島県産野菜に対する拒み(風評被害)

現状としての対策:

- 地元で生産した野菜を地元の人対象に販売し消費する。
- 市場などでPR活動(例:JAによるアスパラガスの販促キャンペーン@東京)

何をすれば消費者は購入しようとするのか？



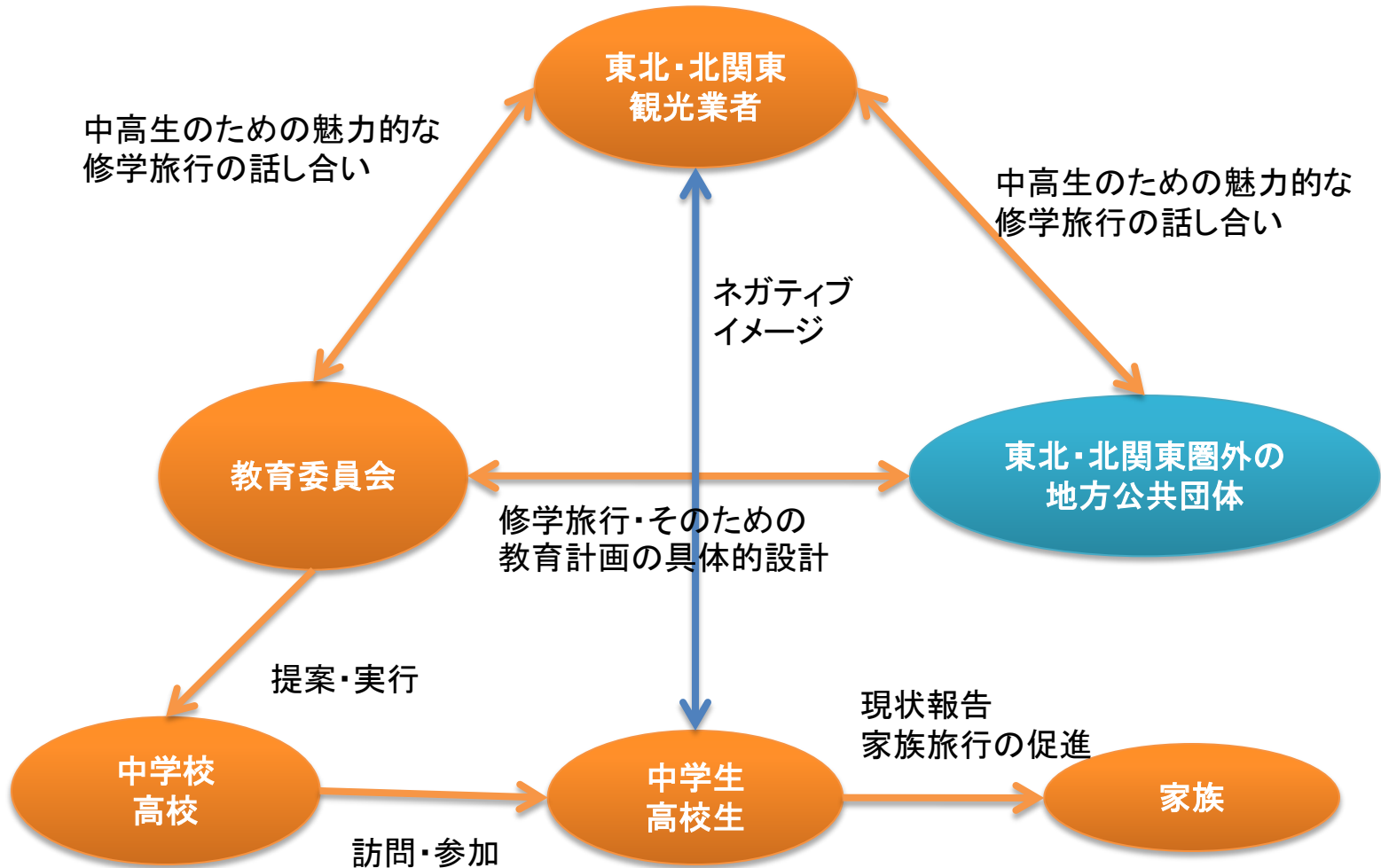
安全な野菜だということを自分の目で分かる必要がある

考えられる新たな対策:

- 他県のスーパーなどに協力してもらい「被災地支援キャンペーン」とうたい福島県産野菜の放射能の測定値を毎朝調べ表示してもらう。
- 場合によっては測定器を設置し、安全基準値が書かれた紙を置く。

「修学旅行」による 風評被害対策

加藤 史紘
環境3年



放射性物質による静岡県産のお茶 の出荷自粛

						生産者
うわさ		マスコミ			→	
	→		→	風評	→	農協
デマ					→	
				↑	→	販売店
				火消し		
				行政		
				(国)		消費者
				(地方)		

静岡県のある地域のお茶から暫定基準値を超える放射性セシウムがでたにもかかわらず、静岡県全域で取れたお茶が放射性物質に汚染されたように報道を行うことで、お茶農家は風評被害を受けている。またこれは風評被害ではないかもしれないが、基準値を超えればはいえ、お茶は飲用にすると薄まるので健康に被害はないにもかかわらず基準値を超えたと過剰に報道されてしまっている。

行政の立場から解決策を考える。

1. マスコミの報道に対するチェックを強める。
2. 安全であることをアピールする。以前もよくあったが、安全だと食べてアピールする。
3. 暫定基準値の見直しをする。
4. 科学的な根拠をもっと消費者に与える。本当に安全ならば根拠となるデータなどを出せるはず。

「環境リスク科学」事前課題 「消費者目線」を探せ

- 小島正美『こうしてニュースは造られる—情報を読み解く力』第2章をよみ、そこで書かれている「消費者目線」で報道されたマスメディア情報の事例（新聞、雑誌、テレビなど。個人のblog等は除く）を探してください。提出は二つ。(1)、(2)をPPT各1枚に。

(1) 記事の見出しと概要

(2) その記事についての客観性、公平性あるいはバイアスの程度についてのあなたの意見や判断

締め切りは、6月**16日(水)**の**21時**